

平成30年度第2回岡山市総合教育会議

日 時：平成30年11月20日（火）

午後3時30分～

場 所：市庁舎 第3会議室

会 議 次 第

1 開 会

2 協議事項

問題行動・不登校等の防止及び解決に向けた取組状況等について

3 閉 会

平成29年度 暴力行為・いじめ・不登校の調査結果について

※正式名称「平成29年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

- 1 暴力行為の推移
- 2 いじめの推移
- 3 不登校の推移
- 4 政令市・全国との比較

1 暴力行為の推移

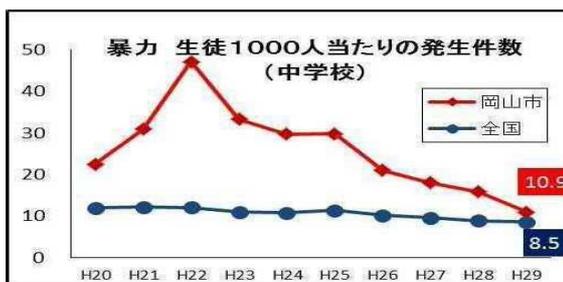
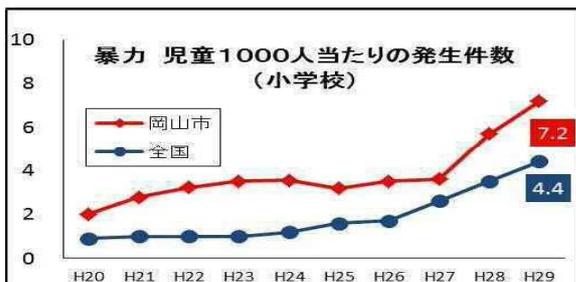
※1,000人あたりの発生件数 = 発生件数 / 全児童生徒数 × 1,000

○小学校

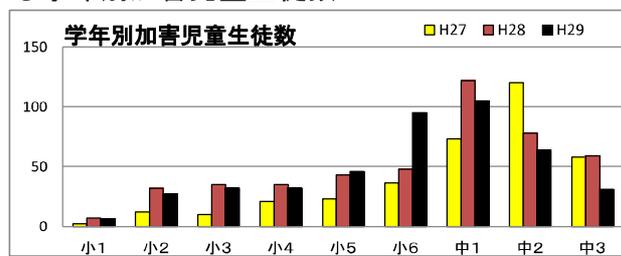
年度	岡山市発生件数	1,000人あたりの発生件数		
		岡山市	岡山県	国
H27	135	3.6	2.9	2.6
H28	217	5.7	3.7	3.5
H29	271	7.2	4.9	4.4

○中学校

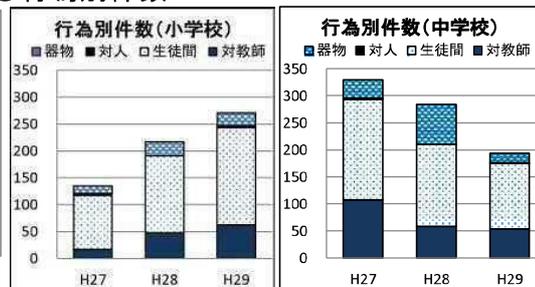
年度	岡山市発生件数	1,000人あたりの発生件数		
		岡山市	岡山県	国
H27	330	18.0	11.2	9.5
H28	284	15.8	9.8	8.8
H29	194	10.9	10.2	8.5



○学年別加害児童生徒数



○行為別件数



■目標値

- 児童生徒1,000人あたりの暴力行為の発生件数
 - ・小学校: 2.6件 (岡山市教育振興基本計画)
 - ・中学校: 9.5件 (岡山市教育大綱、岡山市教育振興基本計画)
- ※いずれも平成27年度の全国平均値。平成31年度までの達成を目指す。



◆岡山市の小学校の特徴 → 分析

- 対教師暴力が増加 (H27:17件 → H28:48件 → H29:63件)
 - 指導中の発生が多いことから、教師の指導の在り方や指導体制に課題がある。
- 暴力行為が発生しなかった学校が減少 (H27:55校 → H28:44校 → H29:40校)
 - 特定の学校だけでなく、市内全域で未然防止や早期対応の取組の充実が必要となっている。
- 6年生で加害児童が急増 (H27:36名 → H28:48名 → H29:95名)
 - 学年で偏りがあることから、指導の一貫性や継続性に課題がある。

◆岡山市の中学校の特徴 → 分析

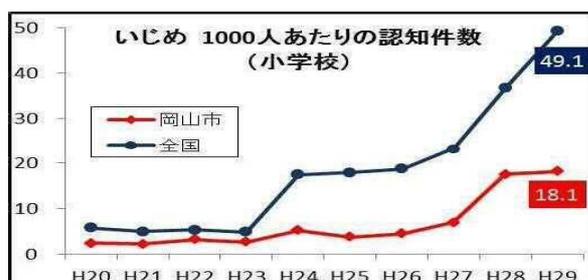
- 発生件数が大幅に減少した学校があった (A中学校 H28:44件 → H29:16件)
 - 保護者と協力した指導や、警察や関係機関と連携した対応等が進んだ。
- 暴力行為が発生しなかった学校が増加 (H27:5校 → H28:4校 → H29:8校)
 - 非行防止教室や、ルールやマナーの大切さを考える授業等、未然防止の取組の効果が現れた。
- 加害生徒は学年が上がるに連れて減少 (1年:105名、2年:64名、3年:31名)
 - 計画的、継続的な指導を積み上げたこと、生徒と保護者、教職員との関係づくりが進んだこと等の効果が現れた。1年生での防止のために、小学校と連携した対策等が必要。

2 いじめの推移

※1,000人あたりの認知件数 = 認知件数 / 全児童生徒数 × 1,000

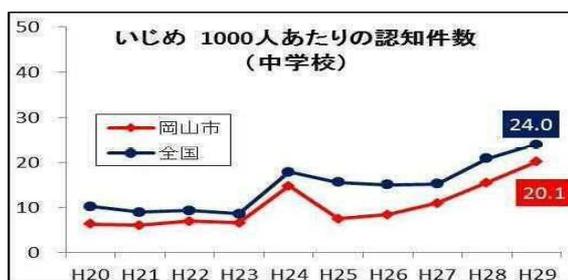
○小学校

年度	岡山市 認知件数	1,000人あたりの認知件数		
		岡山市	岡山県	国
H27	262	6.9	6.0	23.1
H28	659	17.5	12.2	36.6
H29	681	18.1	15.9	49.1



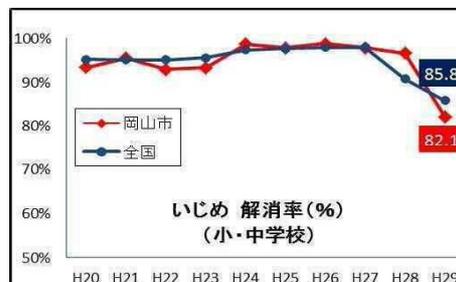
○中学校

年度	岡山市 認知件数	1,000人あたりの認知件数		
		岡山市	岡山県	国
H27	196	10.7	8.9	17.1
H28	279	15.5	12.0	20.8
H29	357	20.1	16.1	24.0

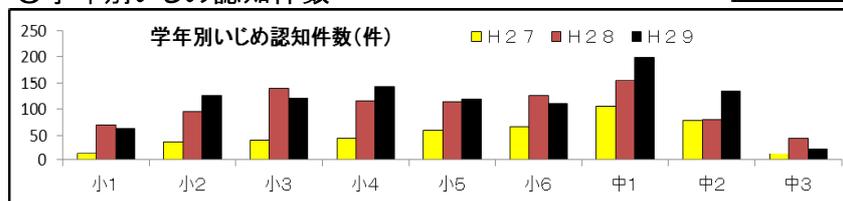


○いじめの解消率(小・中合計)

年度	解消した 件数	いじめの解消率			
		岡山市	岡山県	国	政令市
H27	448	97.8%	97.4%	98.0%	-
H28	906	96.6%	93.9%	90.7%	-
H29	852	82.1%	78.3%	85.8%	88.6%



○学年別いじめ認知件数



■目標値

○いじめの解消率

・100% (岡山市教育振興基本計画)

※「いじめの解消」が定義化されたため、目標達成は困難と思われるが、できる限り100%を目指す。

◆岡山市の特徴 → 分析

○認知件数がこれまでの最多

→ 「いじめ防止対策推進法」におけるいじめの定義をふまえ、質問紙調査やアンケート、教育相談等の実施により、更なる積極的な認知に努めている。

○国のいじめ防止等の基本方針の改定(「いじめの解消」の定義化)により、解消率が低下

※「いじめの解消」の定義...少なくとも次の2つの要件が満たされている必要がある。

①いじめに係る行為が止んでいること(少なくとも3カ月以上止んでいる状態が継続している)

②被害者が心身の苦痛を感じていないこと(本人・保護者に面談等で確認する)

→ 「いじめの解消」の慎重な判断、年度を越えた指導の継続や経過観察等が必要である。

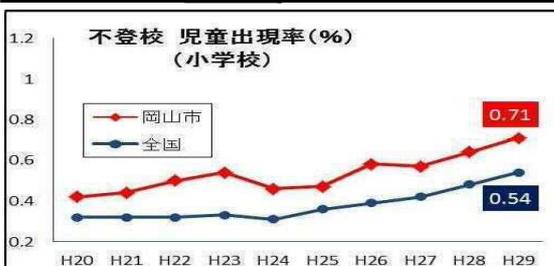
○中学校1年生で認知件数が最多

→ 年齢的に繊細で敏感な心理状態となることに加え、進学により人間関係や集団に変化が生じること等が大きな要因と考えられる。

3 不登校の推移 ※不登校出現率(%) = 不登校児童生徒数 / 全児童生徒数 × 100

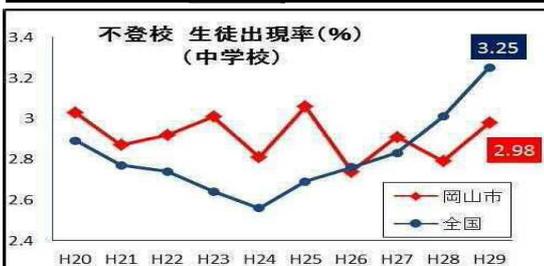
○小学校

年度	岡山市不登校児童数	不登校出現率(%)			
		岡山市	岡山県	国	政令市
H27	218	0.57	0.46	0.42	-
H28	241	0.64	0.51	0.47	-
H29	266	0.71	0.57	0.54	0.59

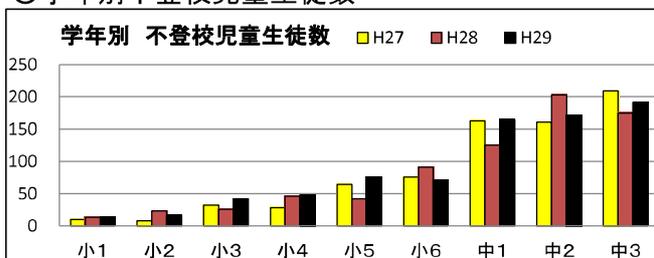


○中学校

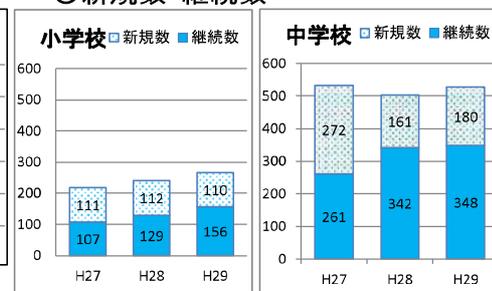
年度	岡山市不登校生徒数	不登校出現率(%)			
		岡山市	岡山県	国	政令市
H27	533	2.91	2.49	2.83	-
H28	503	2.79	2.47	3.01	-
H29	528	2.98	2.70	3.25	3.67



○学年別不登校児童生徒数



○新規数・継続数



■目標値

- 不登校児童生徒の出現率
 - 小学校: 0.42 (岡山市教育大綱、岡山市教育振興基本計画)
 - 中学校: 2.83 (岡山市教育振興基本計画)
- ※いずれも平成27年度の全国平均値。平成31年度までの達成を目指す。



◆岡山市の特徴(小・中合計) → 分析

- 出現率が上昇 (H27:1.26% → H28:1.33% → H29:1.43%)
 - 平成29年度から、長期欠席の理由が複数ある場合、原則として主たる理由を計上することとなったことにより、新たに「不登校」に分類された児童生徒がいる。
- 年間90日以上欠席した児童生徒の割合が高い (岡山市:65.7%、全国:58.3%)
 - 欠席が続くと再登校に向かわず、長期化している児童生徒が増加している。

◆岡山市の小学校の特徴 → 分析

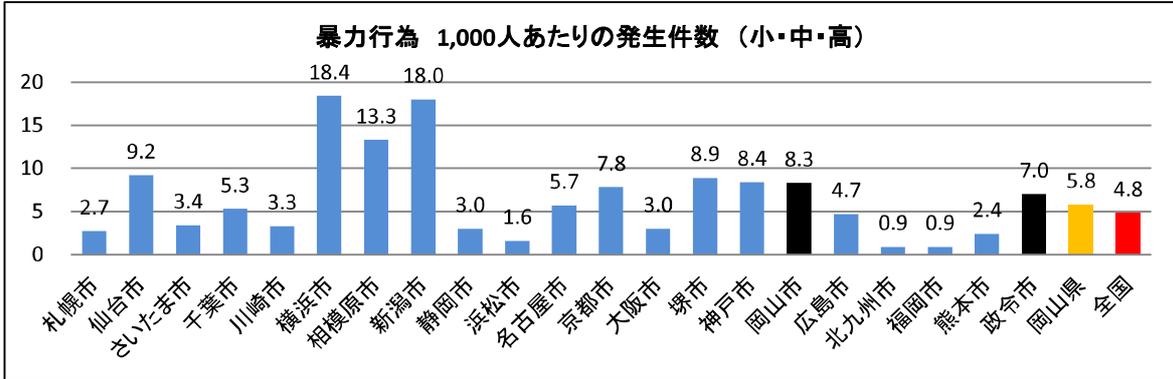
- 低学年(1・2年生)の不登校児童が多い (H27:18名 → H28:36名 → H29:29名)
- 不登校が前年度から継続している児童の割合が増加 (H27:49.1% → H28:53.5% → H29:58.6%)
 - 連続欠席への迅速な対応など、不登校の端緒を捉えた早期の支援が必要。

◆岡山市の中学校の特徴 → 分析

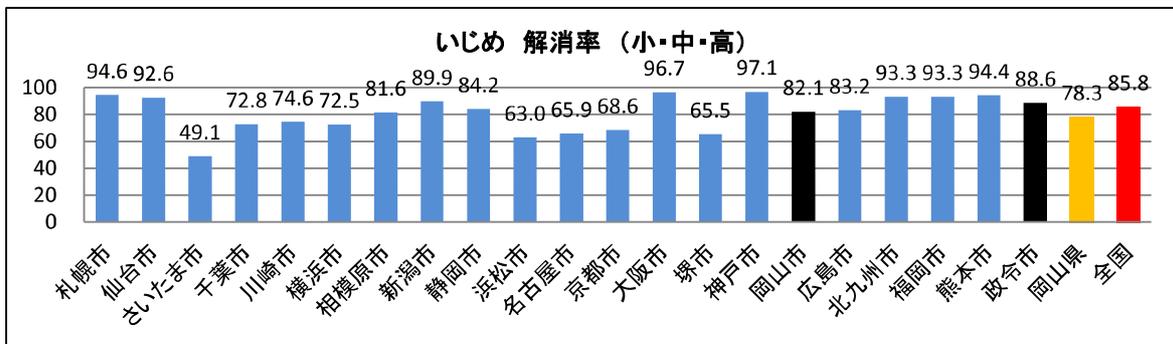
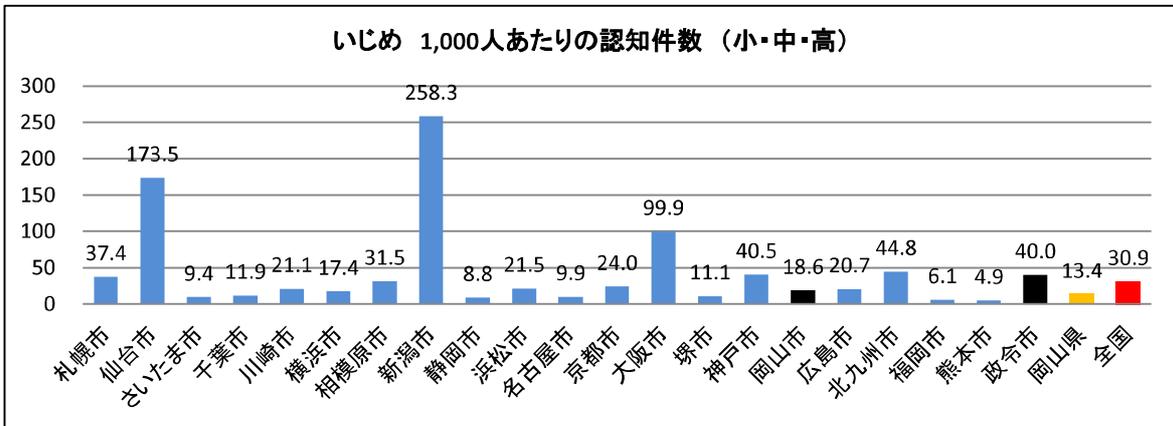
- 新たな不登校生徒が減少傾向 (H27:272名 → H28:161名 → H29:180名)
- 不登校が前年度から継続している生徒の割合が高い (岡山市:65.7%、全国:58.4%)
 - 未然防止はできつつあるが、一旦不登校となった生徒への効果的な支援が必要。

4 政令市・全国との比較

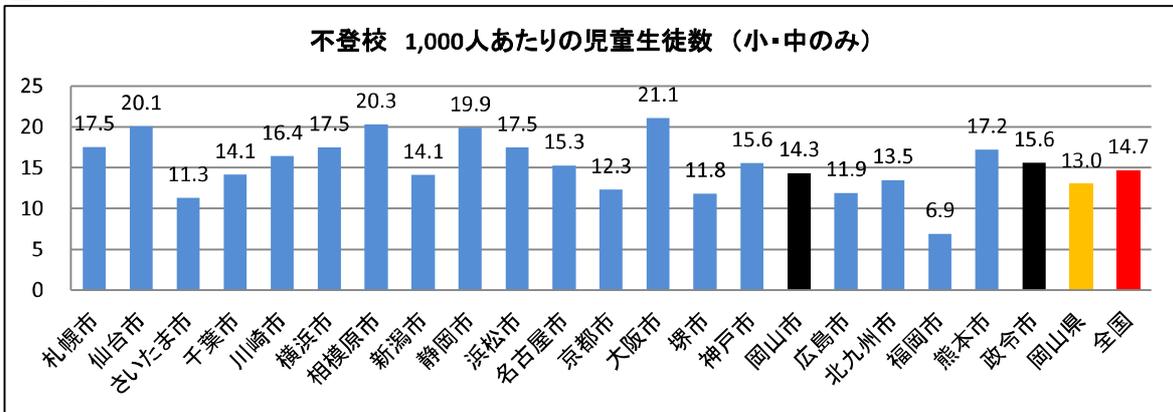
■暴力行為



■いじめ



■不登校



岡山市教育大綱の目標実現に向けて

■現状及び分析

- 暴力行為** … 発生件数が小学校で4年連続増加、中学校は7年連続減少。
→ 小学校で、未然防止や発生時の適切な対応のための体制づくりが必要。
- いじめ** … 小学校・中学校ともに認知件数が過去最多、解消率は低下。
→ 認知したいじめの早期解決、再発防止のための体制づくりが必要。
- 不登校** … 前年度から不登校が継続している割合が、全国に比べて高い。
→ 小学校低学年から、新たに不登校となる子どもを減らす取組が必要。



■今後の取組

○教育委員会から学校を通して、次の取組を子どもや保護者に伝える。

- ◆ 岡山市の学校は、暴力を許さず、毅然と対応します。
 - ・発生時は迅速かつ適切に対応し、再発を防止します。
 - ・警察等と連携して、規範意識の向上に努めます。
- ◆ 岡山市の学校は、いじめを積極的に認知し、解決に努めます。
 - ・アンケートや教育相談などで、積極的な認知に努めます。
 - ・認知したいじめを早期に解決し、再発を防止します。
- ◆ 岡山市の学校は、新たな不登校を生まない取組を徹底します。
 - ・小学校低学年から、連続欠席等への初期対応を徹底します。
 - ・不登校となる前に、スクールカウンセラーや相談機関につながります。

・PTAや地域協働学校等においても、このことについて考えていただく。

○中学校区で問題行動等の防止及び解決に向けた体制づくりを進める。

- ・対応のノウハウや、未然防止の取組を中学校区の学校間で共有する。
- ・小学校の体制に、中学校や子ども相談主事、スクールカウンセラーが加わる。



■目標の実現

○目 標：**問題行動等の防止及び解決**

【中学校】生徒 1,000 人当たりの暴力行為の発生件数

○目標値：**9.5件** (平成 27 年度の全国平均) ← **10.8件** (平成 29 年度の岡山市実績)

【小学校】不登校児童の出現率

○目標値：**0.42** (平成 27 年度の全国平均) ← **0.71** (平成 29 年度の岡山市実績)